

物まね上手なカラスの仲間 ―カケス―

初冬の陶史の森は、冬鳥の飛来も加わり、野鳥の数も増えます。さまざまな鳥の美しい鳴き声があちらこちらで聞こえます。美しい鳴き声に聞き入っていると突然「ジェー、ジェー」という鳴き声が聞こえてくることがあります。「カケス」です。全長33cm程、スズメ目カラス科カケス属に分類される鳥です。

成鳥は額から頭のとっぺんまでが白と黒のまだら模様で、喉と腹は白色、目の周りや尾羽は黒く、後頭部や背面、胸部などは葡萄褐色です。羽の色が美しく特に基部は青がだんだら模様を作っています。嘴は、鉛色で先が黒色です。

カシやコナラの実であるドングリ類を主食にしているために檜鳥(カシドリ)とも呼ばれます。実際は昆虫も食べる雑食性です。食べ物がなくなる冬に備えて木の実を樹皮や地面の隙間に隠し、その蓄えを食べて冬を過ごします。

カケスは、「ジェー、ジェー」としわがれた声で鳴くことから英語名は、「Jay」と名付けられています。他の鳴き声や物音を真似することが巧く、サシバなどのさえずりで、「ピッキー」と高く澄んだ声を上げることもあります。林業のチェーンソーや枝打ち、木を倒す時の作業音を再現することもあります。

陶史の森にもかなりの数が留鳥として生息しています。声はよく聞こえますが森の奥の方で生活していることが多く、なかなか姿を見ることができません。写真が撮れた時にうれしくなる野鳥の一つです。



森の中から出てきたカケス



新クジャク舎が完成しました。 11月6日(金)

クジャク舎は老朽化が進み、鳥が逃げたり、自然災害で壊れたりする危険がありました。今年、新たに子ども広場に近いところに新クジャク舎が建設されました。11月6日(金)インドクジャク、金鶏、地鶏など6羽が移りました。

新しい環境にはじめは警戒し、すくむ鳥もいましたが、少し時間がたつと元気に走り回っていました。新しい環境にも慣れて生活してくれそうです。



教室のご案内

12月

バードウォッチング (要申込 定員10名)

12月27日(日) 午前9時～11時30分

集合場所：ネイチャーセンター裏 林泉の池堤防
初冬の野鳥を観察します。(雨天中止)

1月

バードウォッチング (要申込 定員10名)

1月24日(日) 午前9時～11時30分

集合場所：ネイチャーセンター裏 林泉の池堤防
冬の野鳥を観察します。(雨天中止)

ネイチャーセンターでは、双眼鏡や野鳥図鑑を貸し出しています。気軽に声を掛けてください。

陶史の森は自然環境保護地域です。動植物や石などは絶対に採らないでください。また、ペットの同伴はご遠慮ください。